

三重丘文庫

これからの学校図書館と学校司書

司書教諭 砂川 繁

今、学校図書館（以下、図書館）には次の三つの機能が求められている。

- (1)読書センター…生徒の読書活動の場
- (2)学習センター…自発的な学習活動や授業内容の充実を支援する場
- (3)情報センター…利用者が必要とする情報への対応や生徒の情報活用能力の育成の場

さらに、図書館が「学校教育の中核」の役割を果たすことも期待されている。ここで学校司書（以下、司書）の役割について述べてみたい。司書の仕事は、

(1)休憩時間の開館

司書にとっては当然しなければならない仕事である。とくに業間の休み時間は司書の仕事となる。

(2)貸出・返却・予約の対応

本校はコンピュータ処理なので図書委員に任せられるが、目の離せない仕事である。

(3)選書、発注、受入作業

「選書」とは図書館に入れる本選びである。生徒の読書傾向や授業の利用などを参考に数多くある本の中から「これは！」というものを探しだして選び、「発注」する。次は、発注し納入された本の「受入」である。「受入」れた本はコンピュータに登録し、本にバーコードと分類番号をつけ、ビニールカバーをかけ新刊コーナーに配置する。

(4)図書委員会の支援

特に、学校祭などイベント開催に関して図書委員会を支援する。

(5)環境作り

生徒が図書館を利用しやすいようディスプレイを工夫したり、生徒が快適に利用できるよう環境整備をする。

(6)職員会議への出席

などである。とくに、(1)から(3)は日常的な仕事であり、司書の主たる仕事であり、同時に図書館の基盤である。

以上、(1)～(6)の司書の仕事は、図書資料の収集・整理などの「間接的な支援」と図書資料の貸出・委員会の支援などの「直接的な支援」の二つにまとめることができる。

図書館が三つの機能と「学校教育の中核」の役割を果たすため、図書館長である学校長をはじめとして図書館担当の教員（主に、司書教諭）・司書の仕事は重要である。

さらに司書には「教育指導への支援」が期待されるようになった。これまで司書は学校のカリキュラムとはほぼ無縁であった。しかし、これからはカリキュラムと連動した直接的・間接的な支援を行うということである。

例えば、小論文指導において、素材になる資料を収集し提供する。さらに年次や科と連携し必要に応じて館内に特設コーナーを設けるといった支援をする。

司書は「専ら学校図書館の職務に従事する職員」として位置づけられ、図書館の全ての運営を担当する重要な職である。加えて、「教育指導への支援」という役割を担うことが期待されている。司書が常駐するようになり、子どもたちの成績が上がったという報告もある。

これからの司書は本の貸出や図書館内の整備だけではなく、その専門知識を活かして教育活動への参加が期待され、司書の活躍がますます期待される。

今市高校の学校司書の仕事

司書 星 亜弥香

学校司書はその学校によって仕事内容が若干違いますが、今市高校での学校司書の仕事を紹介したいと思います。本の貸出や書架整理などに始まり、新しく買う本や雑誌の選定・受入、古くなった本の廃棄処理、本の修繕、蔵書点検、館内外のディスプレイ変更、コーナー作り、本の紹介文作成、イベントの企画・宣伝、HP更新、委員会指導など図書館に関することは多岐に渡ります。

今市高校の場合は図書委員がとてもよく活動してくれていて、各階に掲示してある本の紹介文や月に一度の図書館だよりを作ったり、昼休みはカウンターで本の貸出や新聞の切り抜きをしたり、季節が変われば館内の飾りつけを変えて来た人を楽しませたりと、係ごとに分かれて毎週活動しています。図書委員がそういった仕事をしていている分、私は司書として今市高校の図書館の在り方や方向性を考え、活性化を試みています。

近年は本が電子化されるなど、図書館や書店は本だけに特化しているものではなく、カフェや美術館が併設されていたり、デザインがおしゃれだったり様々な複合施設になっている傾向があります。学校図書館では大がかりなことはできませんが、「空間づくり」というものに目を向け、今市高校の中で気軽に立ち寄れる場所を目指しています。もちろん読書をする場所が大前提ではありますが、読書をしなくても楽しめる、休める、リラックスできる空間を作りたいと思っています。図書委員のおかげもあり、休憩できるスペースやソファなどの配置で、活用してくれる生徒が増えました。本を薦めることも大切ですが、まずは来てもらう工夫、イベントなどでの図書館のアピールに力をいれたいと考えています。

今市高校の選書は、話題の本や授業・進路学習で活用できるものが中心となっています。図書系の選書だけだと偏りが出てしまう可能性があるため、教科の先生方からの意見もいただき、本を選んでいます。新しい本を買うことも重要ですが、情報の古くなった本を処分することもしなければなりません。どちらかというところ、この廃棄作業が大変です。廃棄と判断する基準がとても難しいものもあり、授業で使えるかどうか、今の時代と合っているかなど、1冊の本それぞれに対して考えないとはいけません。今市高校の図書館には本が4万冊ほどありましたが、前述の通り廃棄と判断して今年度だけで約4千冊を廃棄処理しました。それでもまだ廃棄の判断をしなければならぬ本はたくさんありますし、次々に買い換えていく必要があります。みなさんが授業や学習で使えるような本も少しずつ買い足しているところですが、満足に足りていないのが現状です。大変心苦しいところですが、将来的に授業の参考になるような本が多数置いてある図書館にできるよう日々懸命でありたいと思っています。

これからより利用してもらうために様々な視点で客観的に図書館を見ていく必要があると思います。情報センターとしての役割と落ち着いた場所の提供ができるように、みなさんからの要望があれば可能な限り取り入れていきたいと思っていますので、ぜひ今高図書館をご利用ください。お待ちしております。

